

2 ひきこもり支援ネットワーク推進のためのツールと活用方法

実際のツールについては「資料編」をご覧ください。

1 ひきこもり支援に関するアンケート（資料編 P.33～36）

【目的】各機関の支援の実態及びネットワーク上の課題を把握するために作成しました。

I. 貴機関でのひきこもり支援の概況について教えてください。	
1. ひきこもり支援に携わる職員の体制について教えてください。	
(1) 所属部署の相談支援に携わるスタッフ数と内訳を教えてください。(実数)	()人 うち、常勤()人/非常勤()人
(2) 所属しているスタッフの職種についてお答えください。 ※複数の資格をお持ちの方は複数回答でお答えください。	保健師()人・看護師()人・精神保健福祉士()人・ 医師()人・社会福祉士()人・心理士()人・ 教員()人・その他()人
2. ひきこもりの方に対して、貴機関で行っている支援の内容を教えてください。(令和〇年〇月～令和〇年〇月に対応した事例)	
(1) 令和〇年度の支援(相談)実績を教えてください。	
①実施している対応方法を選択してください。(複数選択可)	電話相談、面接相談、家庭訪問、同行支援、メール、LINE、その他()
②支援対象を選択してください。(複数選択可)	当事者・家族・その他()
③対応した支援(相談)件数を教えてください。	実()件/延()件
④③のうち、当事者の年代別の支援(相談)件数と性別の内訳を教えてください。(実数)	①12歳以下 ()件→男()件/女()件/性別不明()件 ②13～15歳 ()件→男()件/女()件/性別不明()件 ③16～18歳 ()件→男()件/女()件/性別不明()件 ④19～29歳 ()件→男()件/女()件/性別不明()件 ⑤30～39歳 ()件→男()件/女()件/性別不明()件 ⑥40～49歳 ()件→男()件/女()件/性別不明()件 ⑦50～59歳 ()件→男()件/女()件/性別不明()件 ⑧60～64歳 ()件→男()件/女()件/性別不明()件 ⑨65歳以上 ()件→男()件/女()件/性別不明()件 ⑩年齢不明 ()件→男()件/女()件/性別不明()件
⑤③のうち、初回相談時の主たる支援対象者はどなたでしたか。その件数を教えてください。(実数)	当事者：実()件 家族：実()件 関係機関：実()件 その他：実()件
⑥【⑤で「家族」から相談があった方にお伺いします】 家族の内訳について件数を教えてください。(実数)	父()件・母()件・兄姉()件・弟妹()件・ 祖父母()件・その他()件
⑦【⑤で「関係機関」から相談があった方にお伺いします】	①市役所(〇〇課、〇〇課、〇〇課、〇〇課) ②医療機関(病院・クリニック・訪問看護ステーション等) ③教育機関(小学校・中学校・高校・大学・専門学校等) ④福祉関連事業所(包括支援センター・社会福祉協議会・地域活動支援

【活用時のポイント】

- ・自治体内の実情に合わせて質問項目は編集してください。
- ・質問は量的、質的の両面からひきこもり支援の実態を問うようにしています。
- ・アンケート結果をネットワーク会議で共有することにより、課題の共有と解決策の検討につなげることができます。
- ・回答者の立場で理解できる表現になっているか、負担感等を踏まえ質問内容と全体の分量を確認します。

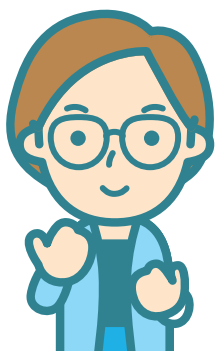
2 ひきこもり支援に関するヒアリング調査シート（資料編 P.37）

【目的】各機関における相談内容や対象者像の傾向を把握すること、関係機関との連携上の悩みや支援対象者像の詳細を聞くことで、支援のはざまに落ちやすい事例を明らかにすることを目的に作成しました。

機関名：	対応者：
1.相談体制、対象者像について 例) どういう職種がひきこもり支援に携わっていますか。 どういったケースを「ひきこもり」と認識していますか。 <input type="text"/>	
2.各機関の行っている支援内容、業務内容の規模、重点事業を確認 例) 支援方法（電話、面接、訪問、メール等）についての、割合はどの程度ですか。 学習支援の場面には、何名くらいの利用者がいますか。今後、拡大・充実する事業がありますか。 <input type="text"/>	
3.連携している関係機関の中で、どの関係機関との連携が多いですか。（上位3つ） <input type="text"/>	
4.支援のはざまに落ちている事例がないか、詳細を聞く。 ・ひきこもり支援対象者の詳細を教えてください。 ・下記5つのうち当事者の心身の状態で多いものはどれですか。（3つの事例タイプ別に上位3つ） ① 精神疾患を有する、疑いがある ② 知的障害を有する、疑いがある ③ 発達障害を有する、疑いがある ④ 身体障害を有する、疑いがある ⑤ ①～④を重複して有する、疑いがある ⑥ 診断や疑いはなし、もしくは診立てることが困難 ・支援終了と判断する基準はありますか。判断に迷う、課題を感じながらも終了とする事例はありますか。 <input type="text"/>	
5.連携の方法、他機関から期待されている役割、事例をタイプ別に確認 例) 他機関に紹介した場合、または紹介された場合、その機関とその後どのように連絡をしていますか。 連携した結果うまくいった事例はありますか。連携先がない、うまく繋がらない事例はありますか。 <input type="text"/>	
6.連携の課題を確認	

【活用時のポイント】

- ・ヒアリングは直接各機関から話を聞き取ります。支援内容を知るだけでなく、ヒアリング機関の雰囲気を知り、顔の見える関係づくりの機会にもなります。
- ・内容はアンケート結果や普段の関わりの中で把握しているヒアリング先機関の実情から、深めたいところを事前に検討します。
- ・どのような方を「ひきこもり」と認識しているのか、支援で大事にしていることは何か、ヒアリング機関を理解するために、普段抱えている悩みや課題を想像しながら準備をします。



コラム

「ヒアリングがつながりを生む～顔がみえる関係から相互理解へ～」：B市ひきこもり支援事業所

「ひきこもり支援」の看板を掲げているからこそ、対象者及び保護者が来所や相談しにくい場合もあることは私たちの課題でした。その点で、今回地域のいろいろな支援機関の方と知り合えたことは、相互に連携し、早期に当事者と接点を持つ可能性が広がった大きな成果であると感じています。

また、ワーキンググループとして関わらせていただいた他機関へのヒアリングでは、ヒアリング先の支援内容を知るだけでなく、逆にこちらの事業のことも知っていただく機会となりました。

ネットワーク会議では、毎回、ひきこもり（その可能性のある方を含む）の支援をしている機関が顔を合わせ、ワークや意見交換を一緒に行ったことがお互いの信頼関係の構築となり、ひいては地域の安心感につながっていくのだろうと思います。最後に、保健所の方々ともお話しする中で、互いの機関の理解が深まると同時に人としての距離が縮まり、相談するハードルがグッと下がりました。ありがとうございました。

コラム

「ヒアリングから見えた、課題の多様化と連携支援の可能性」：B市地域若者サポートステーション

当機関は2009年よりひきこもり支援事業を受託しています。「一歩手前からやってるサポステ」というのが当機関の特徴でしたが、それも今は薄れつつあります。サポステはひきこもり支援ではないものの、若者を取り巻く状況の多様化に応じて少しずつ形を変えており、就労以外に教育、医療、保健、福祉、行政との連携が不可欠となり、家族支援も特別なことではなくなってきています。

開設し来年で20年を迎えるサポステは、世間的にはまだよく知られていません。ゆえに今回のように行政や支援機関の方々と顔を合わせ、現場を共有、発信できる機会自体に大きな意味があったと考えます。私は市障害主管課と市子ども家庭支援主管課へヒアリングでお邪魔しましたが、当事者を取り巻く周辺課題の多様化と深刻化はどの現場も共通しており、ひきこもりは特定の若者の問題でなく、社会課題として全体化していると再認識する機会となりました。そのことにより、連携支援の可能性がまだ多くあることをお互いに確認する機会になったと考えており、このヒアリングを機に担当課の方より実際にお問い合わせいただく機会が増えたことが今回大きな成果だったと考えています。



3 ひきこもり支援事例シート（資料編 P.38）

【目的】各機関が支援している個別事例（好事例・困難事例）を抽出することで各機関が対応しているケース像や支援の内容を具体的に把握するために作成しました。

No.	記入内容のポイント		1	2
機関名	回答者の所属機関			
対象者情報	年齢			
	性別			
相談・支援状況	相談者・関係機関	本人、家族、支援に関わった関係機関など		
	相談につながったきっかけ	初回相談者は誰か/なぜ（どこで知り得た）この機関に相談に来たのか/どのような理由・目的で相談に来たのか/これまで別の機関に相談歴はあるのか・相談自体初めてなのか など		
	事例概要	初回相談時の本人の状況（自宅での過ごし方、外出の有無、交友関係の有無など）/ひきこもり状態になるまでの経緯/家族の状況（本人との関係性、家族関係など）/本人・家族の希望や困りごと/精神疾患・知的障害・発達障害の有無（疑い含む）など		
	直近の状況（支援終了後の場合は終了時の状況）	支援中 or 支援終了 どのような支援を経て、本人や家族の状況が変化したか/本人や家族の特徴を捉えた印象的なエピソード/今後の支援方針/支援終了の判断に至った理由 など		
（※好事例バージョン）	本人・家族対応に関して自機関の機能や役割が支援の展開に効果をもたらしたと思うこと	支援経過において、自機関の専門職・事業・ノウハウが活かされたと思うこと、自機関の強みが活かされたと思うこと など	（※困難事例バージョン）	
	関係機関との連携・社会資源の活用に関して自機関の機能や役割が支援の展開に効果をもたらしたと思うこと	支援経過において、日頃から連携を回っている他機関に自機関からケース相談をした、本人や家族を繋いだなどのエピソード/自機関が把握している社会資源情報を提供したなどのエピソード など		
	本人・家族対応に関して対応に苦慮したこと、支援に悩んだこと、困ったこと	支援経過において、本人・家族の特性が理由で支援に苦慮したこと/自機関の専門職・事業・ノウハウの活用が適さなかったエピソード など		
	関係機関との連携・社会資源の活用に関して対応に苦慮したこと、悩んだこと、困ったこと	支援経過において、自機関から他機関に相談したい、本人や家族を繋げたいと思ったが、情報や連携の乏しさにより悩んだこと/本人や家族の状況に合いそうな他機関、社会資源がないため困ったこと など		

好事例・困難事例でシートを分け各機関からの回答を並べ分析しました。

下2項目については、好事例バージョンと困難事例バージョンで設問を分けました。

【活用時のポイント】

- ・ 記入内容のポイントを示すことにより、各機関の内容が揃うよう工夫しました。
- ・ 好事例を抽出することで、各機関の強み、各機関がもつ支援からどのような役割・機能が発揮されているか等を把握することができます。困難事例を抽出することで、各機関が相談支援や連携の中で困っていること、はざまに落ちやすい事例を把握することができます。各機関がどのような支援をしているか見えてくるため、相互理解を深めることにもつながります。
- ・ 各機関から集まった事例を整理・分析することでネットワーク上の課題が見えてきます。自治体の状況に合わせて知りたいことを項目に追加してご活用ください。

活用例

集まった事例から共通するキーワードを抜き出し、ひきこもり支援における傾向と、地域ネットワークの機能や課題を評価しました。

・ 好事例を分析

支援においてよかった点	①役割分担が明確、連携の中心となる機関あり ②繋げる側・受ける側のアセスメントが一致している ③支援方針が一致している ④助言を受ける機会があった ⑤当事者のニーズに合わせ、オーダーメイド支援ができた
-------------	--

・ 困難事例を分析

本人、家族の課題	①幼少期からのつまづきによる問題の長期化・煩雑化 ②当事者のニーズが乏しい
支援者側、ネットワークの課題	①明確な解決策がない、回復のイメージが持てない ②助言を受ける機会がない ③繋げる側・受ける側のアセスメントが一致していない ④支援機関の機能・役割・強みが十分認識されていない ⑤当事者の多様なニーズに合わせた相談先、居場所、支援機関がない

4 ひきこもり支援ネットワーク推進のための事例検討シート（資料編 P.39）

【目的】ひきこもり支援ネットワーク推進のための事例検討会で活用するために作成しました。

事例提出機関	
事例	年齢（ ）代 性別（ 男性 ・ 女性 ）
相談者	本人 ・ 家族 ・ その他（ ）
関係機関	
相談につながったきっかけ	
事例概要	
直近の状況	支援中 or 支援終了
(好事例) 本人・家族対応に関して自機関の機能や役割が支援の展開に効果をもたらしたと思うこと	
(好事例) 関係機関との連携・社会資源の活用に関して自機関の機能や役割が支援の展開に効果をも	
(困難事例) 本人・家族対応に関して対応に苦慮したこと、支援に悩んだこと、困ったこと	
(困難事例) 関係機関との連携・社会資源の活用に関して対応に苦慮したこと、悩んだこと、困ったこ	

【活用時のポイント】

- ひきこもり支援事例シート [資料② P38](#) で把握した事例から、自治体内での課題やはざまを議論できる事例を取り上げました。
- 個別事例の処遇検討ではなく、ネットワーク上の課題を見出すための議論を目指します。どのような対象者が支援のはざまに落ちやすいのか、各機関がどのように連携すると支援がうまくいくのか等、ネットワークの視点で事例を見ることで得られる気づきがあります。
- ネットワークについて議論する際に、各機関の事例シートを持ち寄って意見交換をすることで、お互いに共感できることが多く、具体的な課題や取組の話に展開しやすくなります。

コラム 「制度のはざま、連携のあり方を意識した事例検討を通じて」

：B市社会福祉協議会

本会では日常的な福祉・生活に関する相談対応のほか、身近な地域に出向いての「対象や内容を問わない相談会」も実施していますが、ひきこもり支援という明確な看板を掲げていないことで、ひきこもりに関する相談を受ける機会は少ないと認識していました。

このたびのネットワーク会議では、本会で支援に関わっている「地域住民からの情報提供によって支援につながった」事例を取り上げていただきました。ネットワーク会議で他機関の事例を含めた検討を行う中で、ひきこもり支援の看板を掲げていなくても事業や活動を通じて対象者となることができることを改めて認識しました。本会が地域活動やボランティア活動の推進に取り組む中でつながってくださっている住民の方々だから気づくことができる「見えにくい対象者」がいて、それを私たちにつなげてくださることの大切さ、ありがたさも感じています。

今回のネットワーク会議の参加を通じて各支援機関が持つ機能や役割、強みを知ることができ、これからの支援におけるつなぎ方や連携のイメージを持つことができました。今後も本会の強みや役割を意識し、各支援機関と連携した支援を行っていきたいと思います。



5 ひきこもり支援ネットワーク推進のためのグループワークシート（資料編 P.40）

【目的】各機関が持つ機能を改めて整理し、他機関と共有するためのツールとして利用すること、機能を振り返りながら支援の「のりしろ（支援の余白）」を検討することを目的に作成しました。

1	<p>日ごろ行っているひきこもり支援について、「伴走型支援」および「課題解決型支援」に分けて、具体的な内容を記載してください。</p> <p>【伴走型支援】繋がること・繋がり続けること自体に重みがある支援（悩みの共有・寄り添いなど）</p> <p>【課題解決型支援】具体的な課題を解決することに重みがある支援</p>
2	ひきこもり支援における貴機関の「強み」は何ですか。
3	ひきこもり支援における貴機関の「弱み」は何ですか。
4	ひきこもり支援において貴機関が多職種連携を図る上で大切に
5	3について、他の機関が実施すると支援が繋がる/支援が広が

【活用時のポイント】

- ・ひきこもり支援を「伴走型支援」「課題解決型支援」、自機関の「強み」「弱み」に整理することで自機関の特徴に気づきます。ひきこもり支援の看板を掲げていない機関でも、ひきこもり支援に応用・工夫できる取組を見つけるきっかけになります。
- ・他機関と一緒に取り組みたいことや取り組めるとよいことについて意見交換することで、今後につながる前向きな議論ができます。

コラム 「グループワークから考える自機関の強みと多職種連携」：B市教育主管課

教育支援センターには、心理職である相談員（以下「心理士」という。）と、福祉職であるスクールソーシャルワーカーが所属しており、学齢期の児童生徒を対象に、心理福祉の両方の側面からアセスメント、アプローチを行うことが可能です。また、心理士は市内の小中学校に市スクールカウンセラーとしても勤務し、発達特性に課題のある児童生徒の相談など、様々な相談に応じており、教員との情報共有も日々行われています。一方、スクールソーシャルワーカーは中学校区に1名ずつ配置されており、学校からの依頼を受けて活動することを基本としていますが、校内で定期的に開催される会議にも参加し、市スクールカウンセラーや教員との情報共有を図ることで、不登校をはじめとした様々な問題に早期介入できるような体制をとっています。本人の発達特性による学校生活のつまずきや、保護者の養育能力をはじめとした家庭の問題など、様々な要因から不登校となる児童生徒も少なくありません。こうした不登校状態が長期化することでひきこもりへのリスクが高まっていきます。

教育という学校を基盤として活動することは、全ての児童生徒が支援対象者と見ることができると言えます。心理士による児童生徒の発達特性の把握や心理ケアといった心理面からのアプローチ、スクールソーシャルワーカーによる家庭訪問や同行支援といったアウトリーチ機能や福祉的視点など、両側面からアセスメント、アプローチできることが自機関の強みであると感じました。しかし、児童生徒自ら相談することは少なく、保護者に問題意識がないと支援に結びつかないという点や、問題

が多様で複雑に絡み合っているため、自機関だけや学齢時期だけで解決できることはそう多くはありません。他機関と協働し、支援にあたっていくためにも他機関の特徴や強みを理解し、また、卒業後も次に繋いでいけるよう、早くから連携の意識を持つことが大切です。今回の取組のように、グループワークを重ねることで、他機関への理解が深まるだけでなく、相談しやすさが生まれ、より多職種連携が活性化すると感じました。

